

図画工作科

自分のイメージを豊かに表現し続けていく子供の育成

～豊かにイメージする力を培う授業の構想～

情報のあふれる現代社会中で、自分の心の奥底に眠る素晴らしいイメージに気付けないでいる子供たちの心を開放し、健康な精神を育てていくことができるのは、図画工作科です。私たち図画工作科教員は子供たちの感性に刺激を与え、解き放ち、造形の素晴らしい世界へ誘っていきましょう。

本校図画工作科では、子供が自分のイメージを広げ、深め、高めていくことで、豊かにイメージする力を培っていきたいと考えています。共に語り合いその糸口を見つけていきましょう。(図画工作科主任 細内 俊久)



“イメージ” それは心の奥底で囁く小さな声、でも力強く激しいエネルギーを秘めているもの

1 研究の経緯と方向

(1) 研究の経緯

これまでの研究から

本校図画工作科では、これまでの3年間「イメージする力を培う」ということを目的に研究を進めてきた。「イメージする力」とは、心の中に表現したいものの色や形をはっきりと思い浮かべて、意欲的に造形に取り組むことができるようにすることであり、そのために、授業の事前・導入・活動・振り返りの場面で具体的な支援をしてきた。

研究の成果

その結果として、子供のイメージ作りを計画的かつ、丁寧に進めていけば、子供は豊かな発想を持つことができるようになり、多様な構想を進めることができるようになることが分かった。また、表現の目的としてのイメージを持たせることで、表現技法を自分から高めていこうとする意欲を高められることが分かった。

研究の課題

しかし、そこで指摘されたことは、イメージを導入の段階で固めてしまうのではなく、授業の中でさらによりよく発展させていくことの必要性であった。また、人の心が新しいイメージを創造していくことのできることの不思議さと、その力の社会における必要性が浮かび上がってきた。

(2) 研究の方向と全体提案との関係

社会の要請から

図画工作科に対する社会の要請として、「図画工作科がつけられる力を具体的に示すこと」と「情操教育としての有用性の明確化」の2つが挙げられている。「図画工作科がつけられる力」とは「発想構想の能力」であり、生活していく中の多様な場面で自然に使用していくものであり、変化の激しい現代社会に対応していくためには必要なものになっている。ここを重点的に進めるためには「技能」中心の教育から「イメージする力」を中心に据えて教育を行なっていくことが必要であることが分かる。

また、「情操教育としての有用性」についても、「イメージする力」を中心に据えた教育において、人の心を大切にしたい鑑賞や振り返りの場面を設定していくことで、「文化的な生き方・美しい生き方」を求めていく姿勢や「人の心をイメージして理解する能力」を高めていくことで答えていくことができるものと考えている。

育てたい子供像

図画工作科では「育てたい子供像」を「表現したいものを自分で見つけ、創りだし、そのために必要な力を自ら身につけていこうとする姿勢を保ち続ける子」、「真の学び」を「イメージする力を培う造形活動を通して、自分を見つめ、自分を知り、高めていこうとすること」と考えた。これは全体提案【学びに目覚める子供たち】を受けて設定したものであり、「育てたい子供像」と「真の学び」を具現化できた状態が「学びに目覚めた」姿と考える。

**研究主題と
副主題**

これらのことを受けて、図画工作科の研究主題を

「自分のイメージを豊かに表現し続けていく子供の育成」

とした。この「自分のイメージ」とは子供が「心の底から表現したいと強く願うイメージ」のことである。この思いを持ち続け、将来にわたって文化的な生活を送っていくことの素地を培っていけるように願って設定した。

そのような子供の育成する上で重点的に付けたい具体的な力として「豊かにイメージする力」を考えてみた。これは、「子供が心の中に思い描いたイメージを発展させながら具体的な造形作品につなげていく力」と考えて設定した。「豊かに」することとは、単にイメージを作品に再現していくことではなく、「イメージを練り上げて発展させながら表現活動をしていくこと」を意図している。

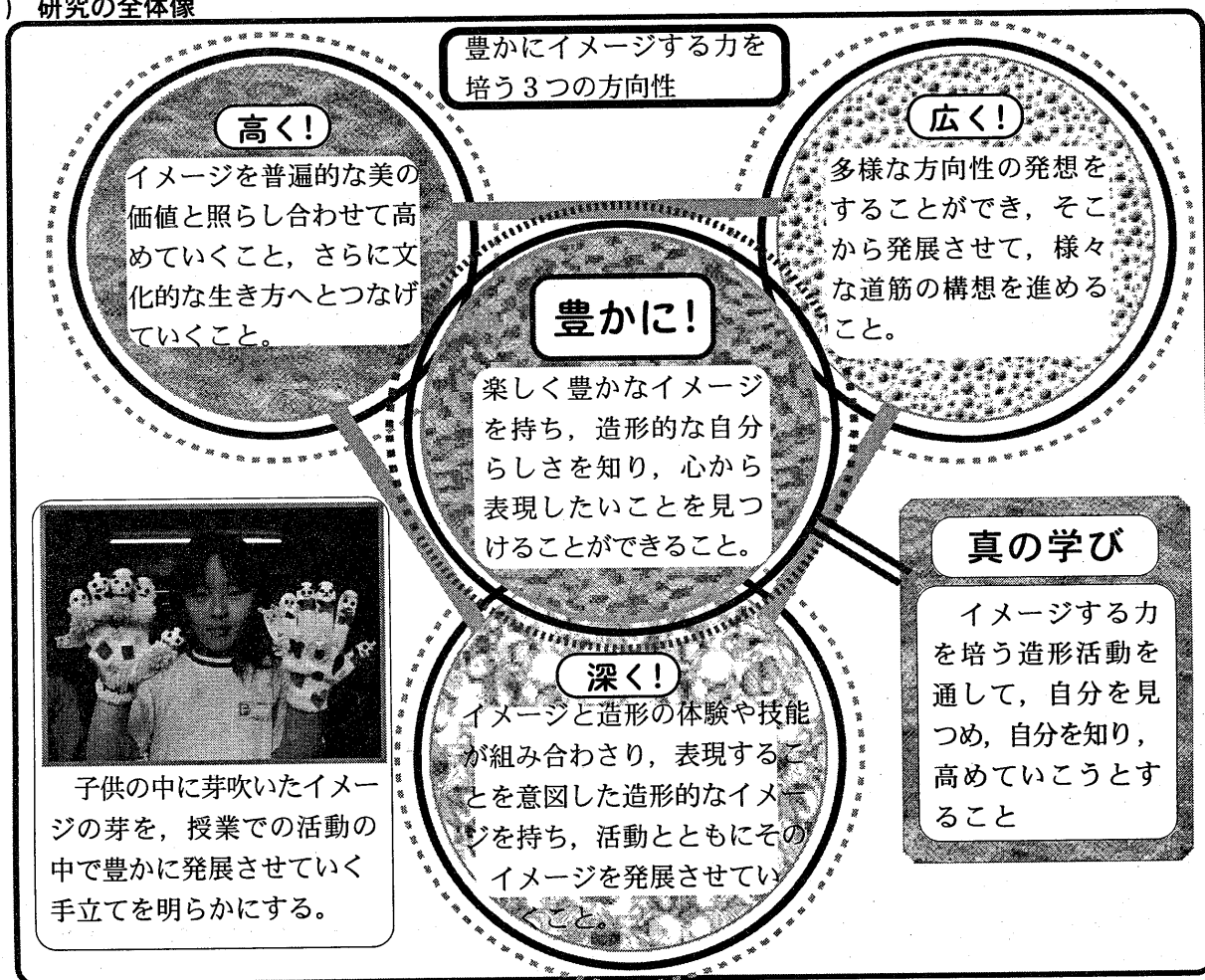
そこで研究副主題を「～豊かにイメージする力を培う授業の構想～」と設定した。

**研究の方向
と仮説**

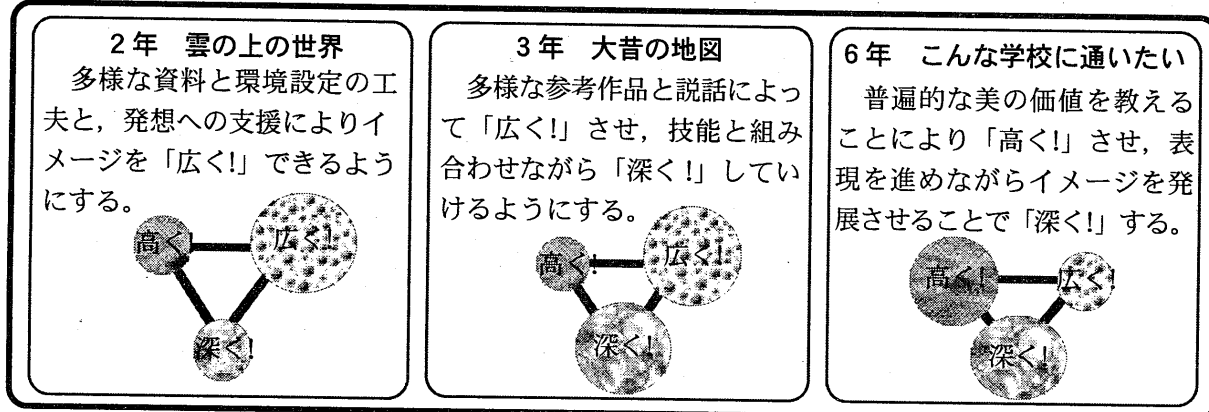
研究の方向としては「豊かにイメージする力を培う3つの方向性」を想定してみた。子供のイメージに刺激を与えたり、発展させたりしていくアプローチの方向性として「広く!」「高く!」「深く!」の3つを考えた。仮説として「イメージを広く・高く・深くすることを目的にして、3つの方向性を意識して題材を設定(見直し・新設)していけば、子供たちは自分のイメージを造形活動とともに発展させていくことができるであろう。」と考えた。なお、この3つは順番等が決まったものではなく、題材のタイプに応じて重点的に手立てを打つように進めていくもので、全ての題材で同じように力をかけていくわけではない。

2 研究の内容

(1) 研究の全体像



(2) 題材の進め方の例



3つの方向性の進め方については上記の図のように題材によって重点を設定して行っていく。これは、題材の内容や、子供の発達段階に応じて設定するものである。例えば3年の大昔の地図の題材では、多様な地図記号のアイデア例を示したり、クイズやゲーム的な内容を盛り込んだ参考例を見せたり、楽しい物語を話して聞かせることによってイメージを「広く!」させていき、そこにマッピングやカラーペンの効果的な使用や、水彩の技法などを試させていくことにより、イメージを「深く!」していけるようにするが、個人の発達段階に応じてより美しい地図の記号や飾り文字、地図の中の複雑な物語までも進めさせていき「高く!」していけるようにする。

(3) 研究の具体的内容

本校図画工作科ではイメージを豊かにすることを「楽しく豊かなイメージを持ち、造形的な自分らしさを知り、心から表現したいことを見つけることができること。さらに、イメージを練り上げて発展させながら造形活動を行なっていくことができること」と考えた。

そのための具体的な研究内容として「事前の活動や導入の工夫によって芽吹いたイメージを、活動の中で豊かに発展させていく手立てを明らかにしていくこと」と「題材を広く・深く・高きの3方向から見直したり、新題材を設定したりすることにより、さらにイメージする力を培っていけるようにすること」を考えた。

ア イメージを「広く!」する授業の構想

イメージを「広く!」することとは「多様な方向性をもつ発想をすることができ、そこから発展させて、様々な道筋の構想を進めることができること」と考える。

● 自分とは異なる友達の考えに気付く場面の設定

自分のイメージ再現だけに終わらず、友達のイメージや技能的なアイデアなどを意図的に紹介し、その具体的なよさに気付くようにさせることで、子供のイメージが広がるような場面を設定する。

- ・ 授業の途中でお互いのアイデアスケッチや、作品を拡大コピーやVTRでズームアップして見せながら、そのよさを具体的に伝えていくことで、自分の世界だけで終わらずに、友達のイメージの世界との出会いを体験させていく。

● 自他のアイデアを総合的に判断して選んだり組み合わせたりする場面の設定

自分や友達のアイデアや教師の参考作品などをじっくりと見て、そのよさを多様な観点から総合的に判断し、取捨選択したり、組み合わせる新たなものを生み出したりすることができる場面を設定する。

- ・ 自分、友達、先生などの作品やスケッチを「アイデアのおもしろさ、美しさ、奇抜さ、完成度、技能的な高さ、材料の利用の工夫、などの具体的な観点を通してじっくりと鑑賞させることで、そのよさの特徴に気付き、自分の中に比較検討しながら取り込んでいけるようにする。

● 多様なタイプの表現技法を試す場面の設定

新しい技能を試してみたりする場面を設定することで、イメージを技能とつなげて広げていく場面を設定する。

- ・ 実際の材料や技法と出会う場面を設定することで、イメージを広げていけるようにする。

○ イメージが広がった子供の姿

- ・ 友達や教師との意見交換の中で様々なイメージをもったり、変化させたりして楽しんでいる。
- ・ 自分の中の多様な願いを認識してそこから始まるイメージを楽しんだり、自分らしいイメージについて考えて選択したりしている。

イ イメージを「深く!」する授業の構想

イメージを「深く!」することとは「イメージと造形の体験や技能が組み合わさり、表現することを意図した造形的なイメージを持ったり、活動とともにそのイメージを熟成させていったりすること。また、イメージを人物の内面性や、表現対象の構造の理解にまで進めていけること」と考える。

● 自分のイメージと経験・知識を組み合わせていく場面の設定

- ・ 最初にもったイメージ再現に終始するのではなく、活動の中で技能等による刺激を受けることでイメージを発展させていくことができるようにする。

● 自分らしいイメージや造形について振り返ったり、作り出したりする場面の設定

- ・ 友達との違いを確認したり、自分のイメージ傾向を見つけ出したりする活動を通して、自分らしさについて認識したり、そこからさらに追究していったりできるようにする。

● 表現対象の内面に迫る場面の設定

- ・ 十分な観察や内面の理解を通して、表現対象の構造や人物の人柄も工夫して表現していくことができるようにする。

○ イメージが深まった子供の姿

- ・ 自分の願いや個性に合う色や形を追究して表現している。
- ・ 表現意図に合わせた適切な材料や用具の使用を考え、また、材料や用具の特徴からさらにイメージをつくり出している。

ウ イメージを「高く!」する授業の構想

イメージを「高く!」することとは「イメージを個人的な価値観で終わらせることなく、普遍的な価値と照らし合わせて価値あるものにしていくことであり、さらに文化的な生き方へとつなげていくこと」であると考え。

● 造形美の普遍的な価値についての知識を理解する場面の設定

- ・ 美術作品の解説だけでなく、美しい表現の一般的なあり方についての説明や、表現活動によって、普遍的な価値を理解できるようにするとともに、文化的で美を求めていく生活につなげていく。

● 美とは何なのかについて真摯に問う場面の設定

- ・ 美しさとは何なのかについて、自分の感性と友達の感性や一般論とを比較しながら、真剣に考えていく場面を設定することで、美について真剣に考える態度を培っていく。

○ イメージが高まった子供の姿

- ・ より美しい形や色を目指して、アイデアを練ったり、形を切り直したりしている。
- ・ 普遍的な美の価値を理解して、より美しいものを求めて活動している。

3 研究の成果と課題



今年度の研究の成果は、イメージする力を3つの方向性から子供像を具体化することで、支援していく方向性を見出すことができたことである。また、そこから一人一人への支援の手立てを考えてくことも具体化することができるようになった。この豊かにイメージする力を培うことは全体提案の(3)自分の見方や考え方をもちつための方策を明らかにすることにつながったと考える。

課題としては、授業の中で終わってしまっているイメージを豊かにしていく活動を、子供の生活全般に広げていくことである。その先にある生涯を通した美との豊かな付き合いを生み出していきたいと考えている。